

## **第 2 期中期目標期間見込評価**

### **添付資料**

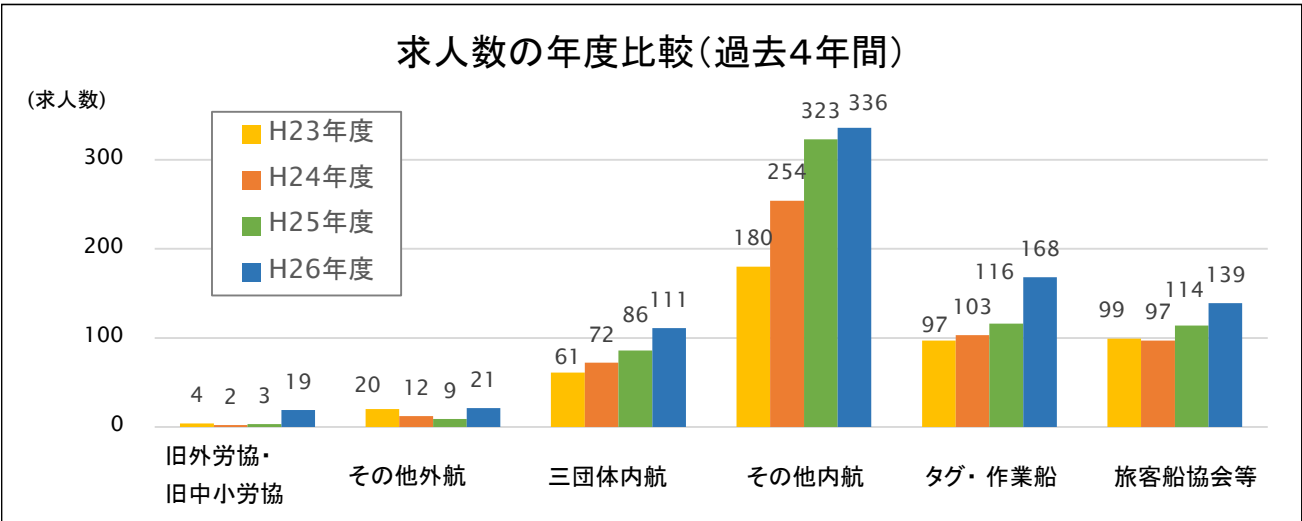
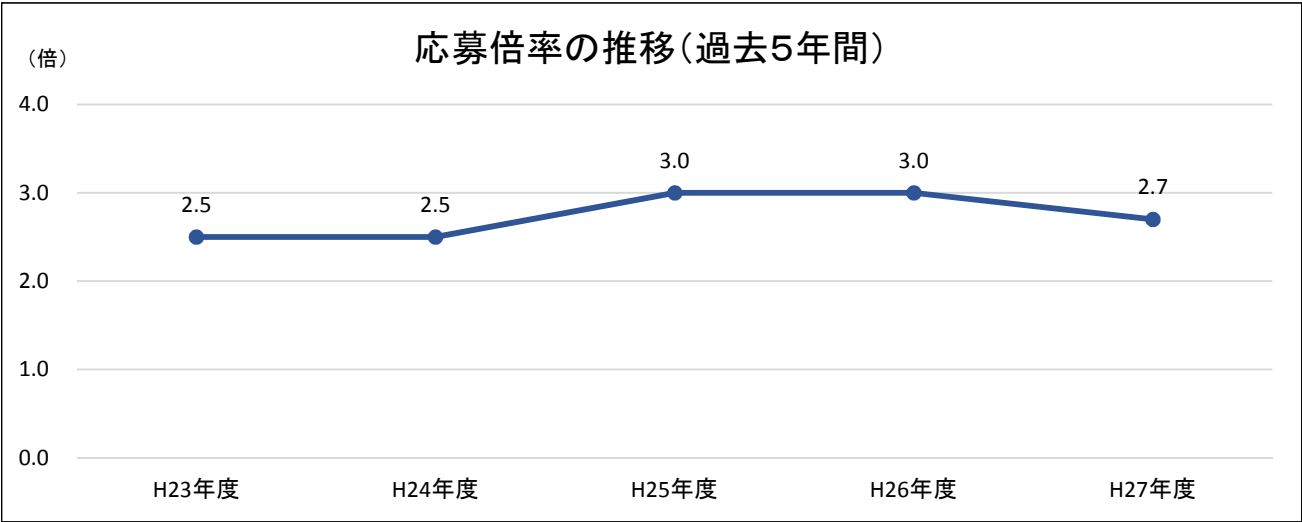
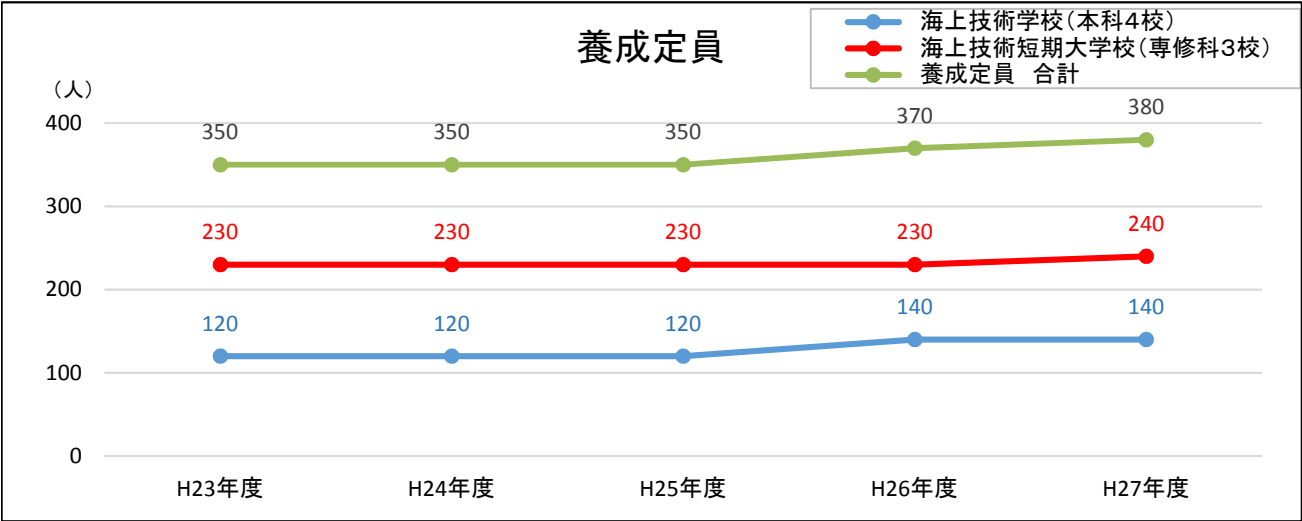
**独立行政法人海技教育機構**

## 添付資料一覧

- 添付資料 1 : 養成定員の見直し
- 添付資料 2 : 視聴覚教材一覧
- 添付資料 3 : 海技士国家試験の合格実績
- 添付資料 4 : 資質教育における取組
- 添付資料 5 : 保護者アンケートの調査の結果
- 添付資料 6 : 船員になるために（船員としての心得テキスト）
- 添付資料 7 : 海事関連企業等への就職率
- 添付資料 8 : 就職に関する取組
- 添付資料 9 : 海運業界からのニーズ又は意見
- 添付資料10 : 社船実習の実施状況
- 添付資料11 : 研修実績
- 添付資料12 : 各学校の研修の取組
- 添付資料13 : 各学校の募集活動に関する取組
- 添付資料14 : 入学応募者数・応募倍率の推移
- 添付資料15 : 研究項目一覧
- 添付資料16 : 研究成果発表一覧
- 添付資料17 : 人事交流の実績

## 養成定員の見直し

- 内航業界就職者の5割を、海技教育機構が輩出
  - 地域事情及び業界ニーズを踏まえ、効率的な船員養成が可能となるよう検討
- 「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会報告」（平成24年3月）





視聴覚教材一覧

航海科		作成年月
航路航行関連	浦賀水道航路	平成24年12月
	明石海峡航路	平成26年2月
	備讃瀬戸東航路	平成26年2月
航海当直関連	変針要領/報告	平成24年12月
	リーサイド当番要領/報告	平成25年5月
出港関連	船尾配置	平成25年5月
投錨関連	船橋配置	平成26年2月
	船首配置	平成24年12月
抜錨関連	船橋配置	平成26年2月
	船首配置	平成26年2月
航路標識関連	灯火の灯質	平成24年12月

機関科		作成年月
ディーゼル機関関連	ピストン抜き出し作業	平成24年12月
	(ピストン抜き出し作業後の)各掃除、計測作業	平成25年5月
	ピストン復旧作業	平成25年5月
	シリンダヘッド整備作業	平成25年5月
	(ピストン復旧後の)主機試運転	平成25年5月

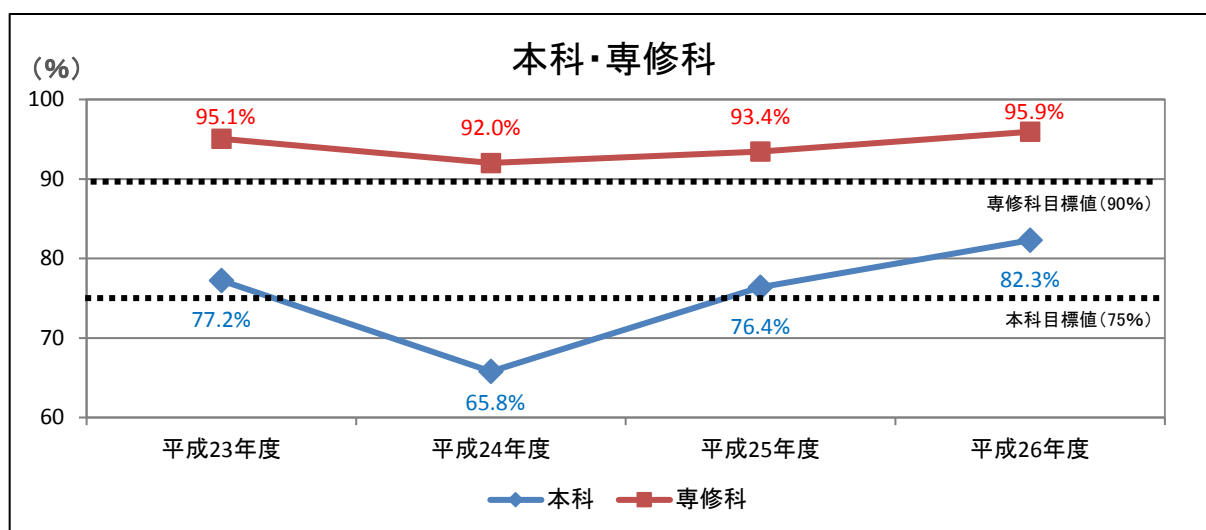
船内生活・課業		作成年月
船内生活関連	船内生活(前篇)	平成25年5月
	船内生活(後篇)	平成25年5月



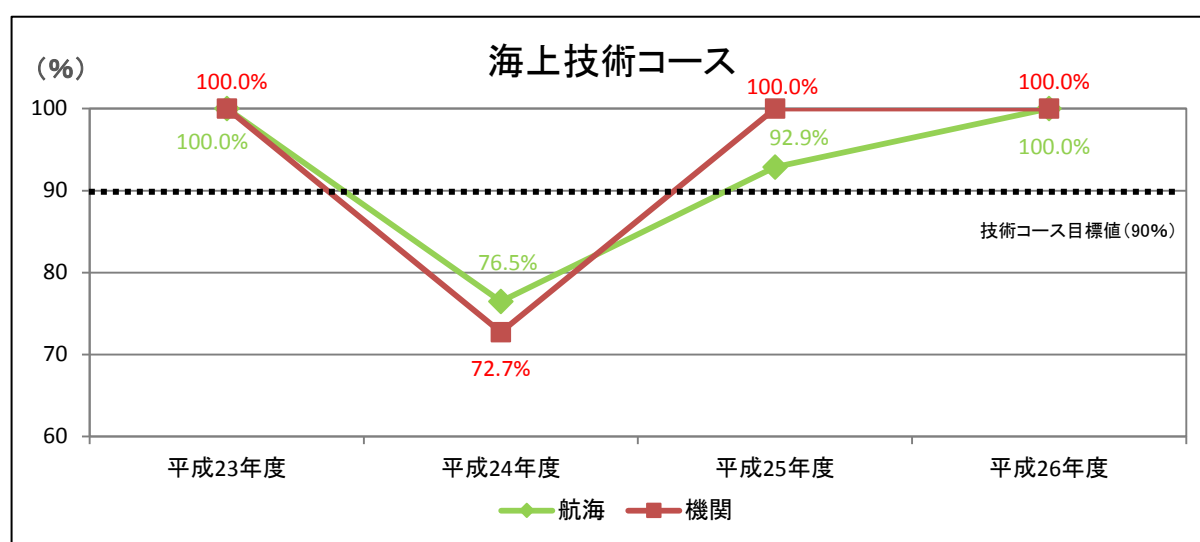
## 海技士国家試験の合格実績

### ○合格率

#### 四級海技士（航海・機関両方の合格率）



#### 三級海技士（航海又は機関の合格率）



### ○取組

#### 海技資格取得向上のための取組

- i 基礎学力の向上
  - ・「数トレ」や「漢字ドリル」などで指導し、基礎学力の向上を図るとともに学習意欲を向上
- ii 指導方法の工夫
  - ・生徒・学生の学力レベルに応じた補講の実施
  - ・個人補講の実施
  - ・本番さながらの模擬口述試験を通し、服装や言葉遣い等に対する指導を徹底
  - ・タブレットやパソコンを活用した指導の実施
- iii 問題集の精選や見直し
  - ・過去に出題された問題を精選し問題集を作成
- iv 航機両方の資格取得の価値観の意識付け
  - ・授業や就職指導を通し、航海・機関両方の資格を取得することの重要性を説明





## 資質教育における取組

### 寮生活を通しての主な取組

- ・ 多くの生徒と接することで協調性を養うよう、生徒の希望も汲んだ定期的な部屋替えを実施。
- ・ 巡検前の部屋掃除を確実に遂行することで積極性を養うことを目的として、「優」「良」「可」の3段階で評価し、2週間連続で「優」となった部屋を表彰。
- ・ 当番任務を確実に遂行することで責任感を養うことを目的として、当直学生に当直日誌に加え、潮汐・日出没等航海諸元を調べ専用日誌に記載するよう指導。

### 生徒会、各種委員会活動による取組

- ・ 忘れ物スペースの設置、洗濯機の月に1度の除菌洗浄、新聞の整理、寮不良箇所の整備など、生徒会を通じて各専門委員会で環境整備を行い、積極性を養うことにした。
- ・ 生徒会を中心とした朝のあいさつ運動を継続して実施し、生徒一人一人の様子を確認や服装、言葉遣いを指導することにより、船員としての資質を涵養。
- ・ レガッタ大会や学校主催で年1回実施している登山への参加を通じて、忍耐力など様々な資質を養っている。

### 生活指導上の取組

- ・ 自立性や協調性の涵養を図り、入学時に寮規則や懲戒に関する規則を示すことで、学生寮における団体生活の意義をより明確化。
- ・ 責任感や礼儀等の船員としての資質の向上を目的として、海上実習時には係を設け、整列・点呼、服装、時間厳守等を繰り返し指導。
- ・ 始業前に練習船機関部の点検と気象観察を実施することで船員としての資質を涵養。

### その他の取組

- ・ 夏休みに3冊以上の読書をさせ、その中の1冊で感想文を書かせることにより、論文作成力を養った。



## 保護者アンケートの調査の結果

1. 回答率： 62.2% (255人/410人)

### 2. 設問

環境整備： 学校は清掃が行き届き、よく整備されていると感じますか。

生徒の雰囲気： 生徒は挨拶ができ、明るく健全な雰囲気が感じられますか。

教職員の対応： 教職員の対応は誠実で、信頼できると感じますか。

教科指導： 教員は、授業に熱心に取り組み、分かりやすい授業をしていると感じますか。

生徒指導： 学校は、生徒指導に熱心に取り組み、その成果が表れていると感じますか。

進路指導： 就職や進学に関する情報提供や指導が、適切に行われていると思いますか。

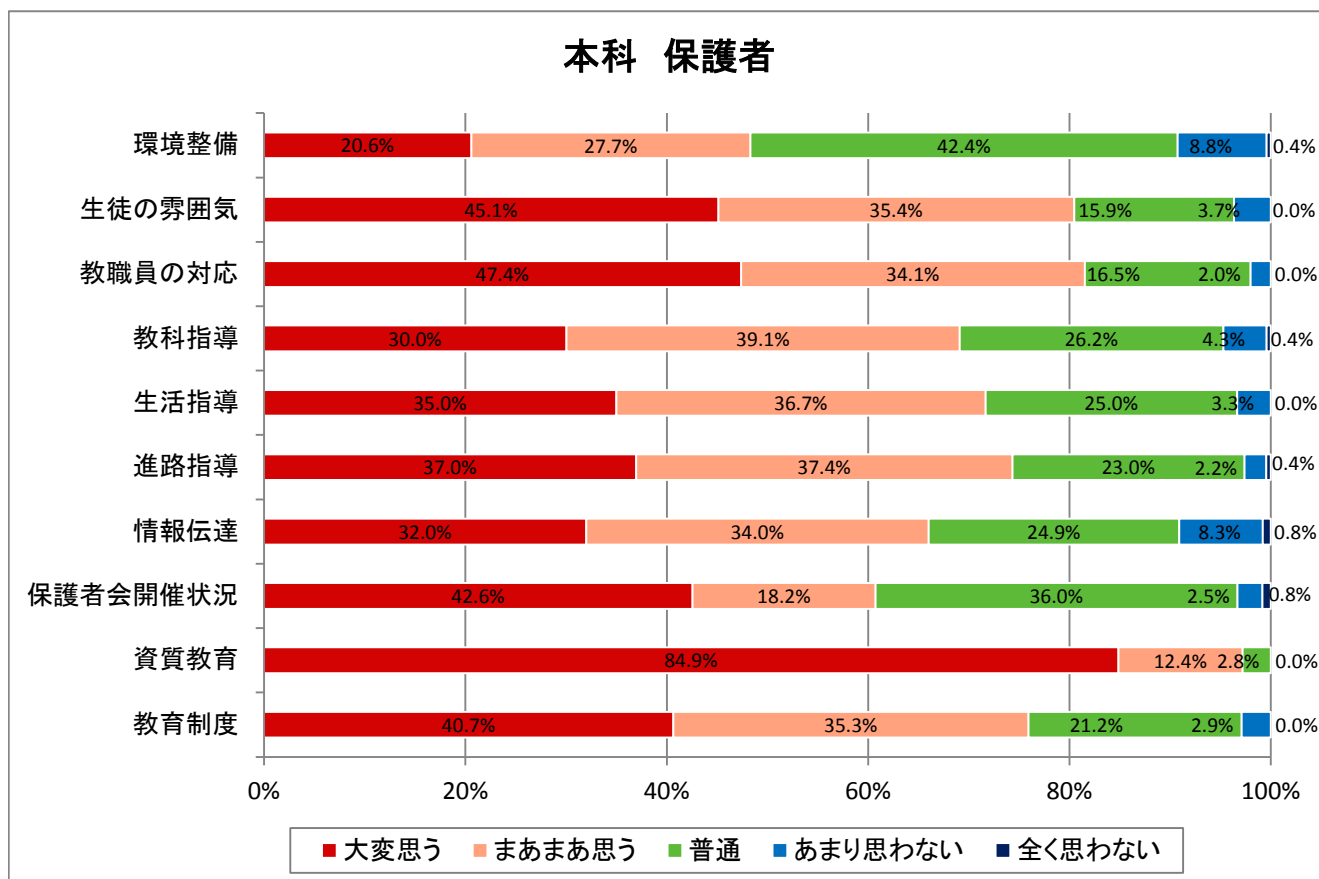
情報伝達： 学校からの情報は、学級通信やHP等により、適切に家庭へ伝えられていると思いますか。

保護者会開催状況： 保護者会や参観日の開催回数や内容に満足していますか。

資質教育： 寮生活や実習実技など在学习中の経験が、社会に出ていく上で役に立つと思いますか。

教育制度： 学校は、海技士資格、高卒同等資格などの各種資格取得制度について、その重要性の説明や補講などによる指導に努めていると思いますか。

### 3. 回答結果(グラフ)



#### 4. 回答結果について

「生徒の雰囲気」「教職員の対応」「資質教育」などの項目については、好評価とする回答が約8割を占める一方で、「環境整備」「情報伝達」「保護者会開催状況」についての評価は低い。  
保護者と学校の連携を一層深めていく。

#### 5. 学校に対する意見

##### ①入学後の子どもの変化

- |                    |
|--------------------|
| ・ 自立心や責任感が育ってきた。   |
| ・ 家族に対する思いやりが出てきた。 |
| ・ 礼儀がしっかりしてきた。     |

##### ②子どもに期待していることや改善して欲しいこと

- |                           |
|---------------------------|
| ・ 生活態度(サービス・規律)を正しくして欲しい。 |
| ・ 目標を持って取り組んで欲しい。         |
| ・ 卒業まで一生懸命努力して欲しい。        |

##### ③学校に期待していることや改善して欲しいこと

- |                           |
|---------------------------|
| ・ 就職や進学(補講含む)のサポートをして欲しい。 |
| ・ 食事内容を改善して欲しい。           |
| ・ 設備環境を改善して欲しい。           |

##### ④その他

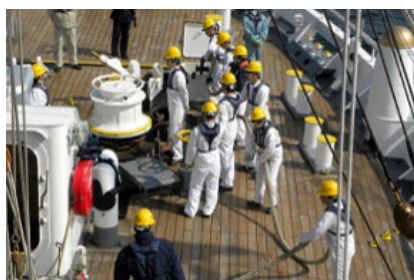
- |                                    |
|------------------------------------|
| ・ 先生方にはとても感謝しています。今後ともよろしく願いいたします。 |
| ・ ホームページの更新を含め、情報をもっと多くして欲しい。      |

#### 6. アンケートに基づく改善

- |  |
|--|
| ・ 引継ぎ簿を改良したことにより、生徒の問題行動が共通認識できるようになった。              |
| ・ 「給食アンケート」結果を元に、生徒の様々な要望を伝え、給食委託業者に可能な限り対応を行ってもらった。 |
| ・ 環境整備については、予算の範囲内で設備の更新、修理、手入れを行った。                 |

# 船員になるために

— 船員の心得と学校生活 —

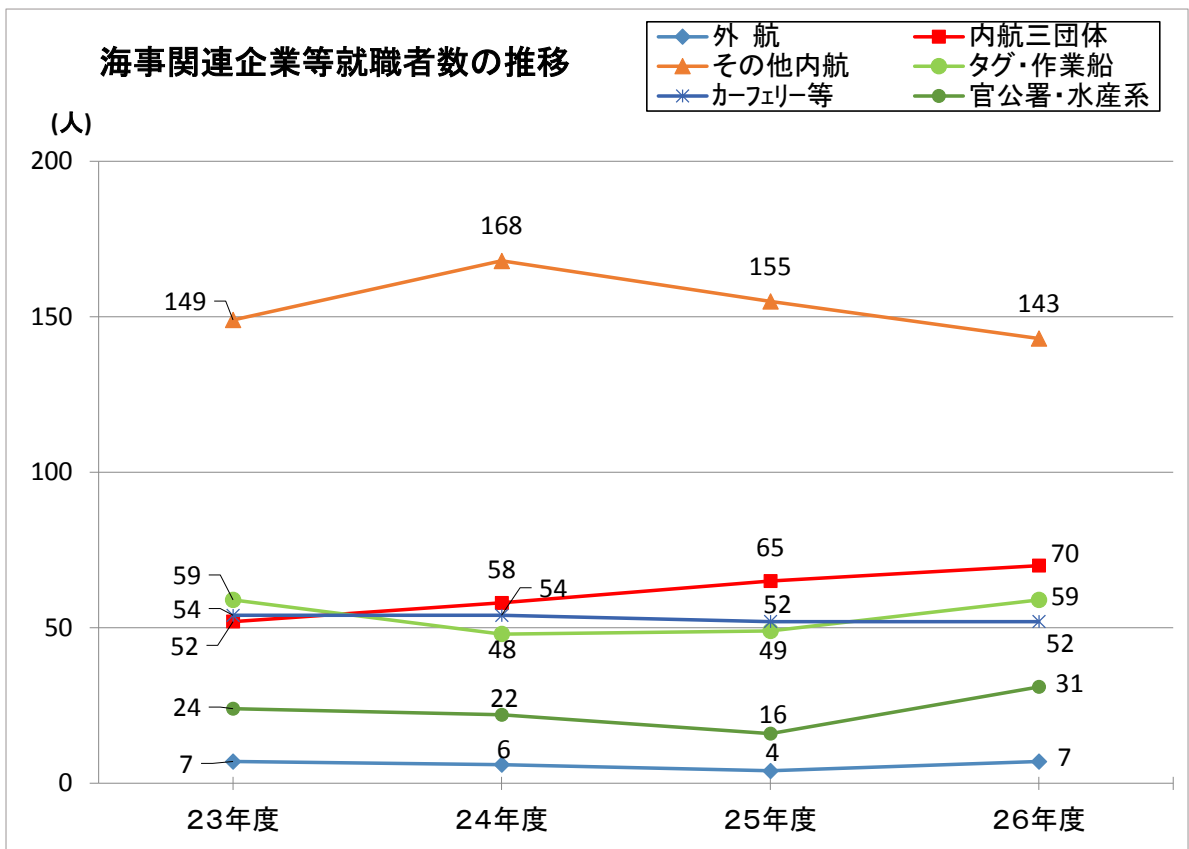
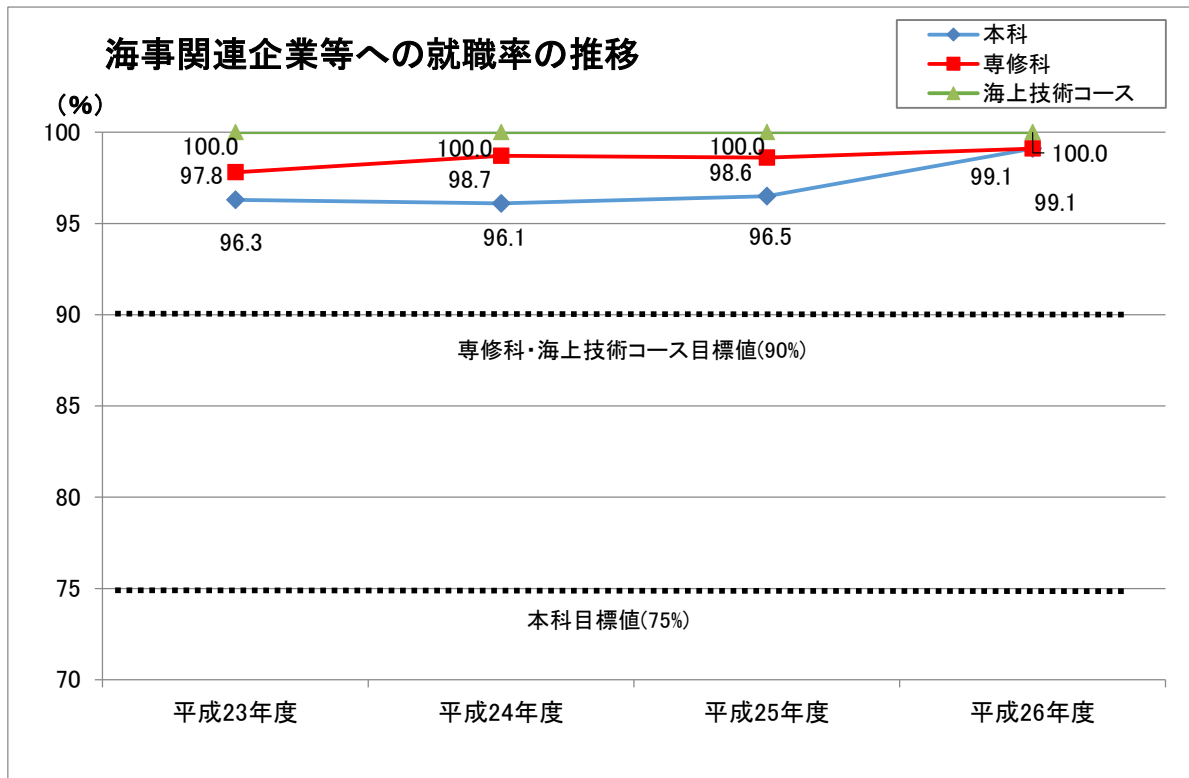


独立行政法人海技教育機構

## 目 次

	頁
1. 社会人としての心構え	1
(1) 社会人になるということ	
(2) 社会人の一般的心得	
(3) 在学中の心構え	
2. 船員の職務と心構え	2
(1) 船員の職務の特殊性	
(2) 船員に求められる資質	
(3) 具体的なマナー	3
(4) してはならないこと	6
3. 学校生活で身に付けること	8
(1) 船員になることを意識した生活	
(2) 寮生活	
(3) 授業・実習	
(4) 規律の遵守	
(5) 自己評価のチェックリスト	9
4. 会社訪問等の注意事項	10
(1) 会社訪問	
(2) 就職試験	
(3) 練習船航海実習	
5. 参考資料	11
(1) 「船員としての資質」	
(2) 「新人船員に求める能力・資質」	
(3) 寮生活が学生にもたらす効果	12
(4) 新卒採用に関するアンケート	
(5) 関係規程	13

## 海事関連企業等への就職率







## 就職に関する取組

### ○海事関係団体・海運会社等との懇談会

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
77回	70回	122回	75回	344回

### ○職員による会社訪問

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
523社	493社	392社	248社	1,656社

### ○内航乗船体験

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
体験者		70名	79名	67名	77名	293名
受入船社		32社	41社	39社	39社	151社
受入隻数		41隻	52隻	47隻	55隻	195隻
内訳	自動車運搬船	5	6	2	4	17
	RORO船	10	14	13	14	51
	貨物船	10	10	10	9	39
	コンテナ	1	2	0	1	4
	石灰石運搬船	3	3	3	2	11
	セメント船	5	4	4	5	18
	タンカー	7	12	14	19	52
	タグボート	0	1	1	1	3



## 海運業界からのニーズ又は意見

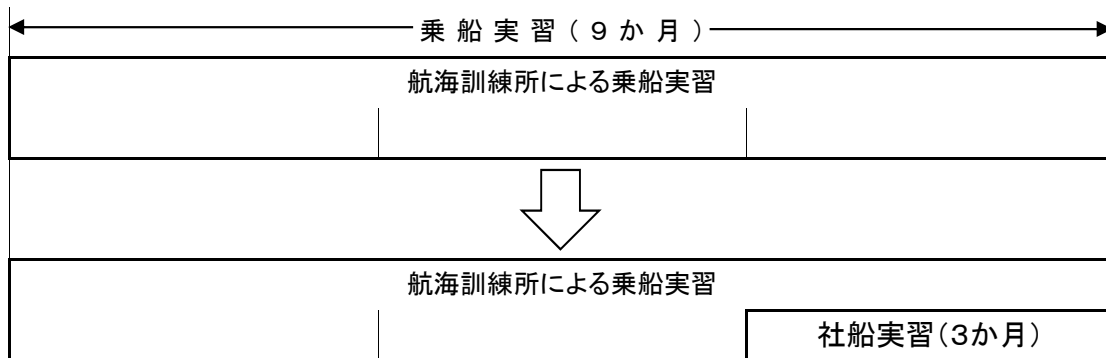
<b>船員の資質に関すること</b>
・ 新人船員として、向上心、レベルアップ、コミュニケーションが大切
・ 大きな声で挨拶できることが大事
・ 挨拶や道徳に関する教育をして欲しい
・ 明るく素直であることと、人に対する接し方を学んで欲しい
・ 知識より勉強をしようという姿勢を育てて欲しい
・ 努力する人は大きく伸びる、職員登用は学歴ではない
・ 部屋にひとり閉じこもらないで、他の人に話しかけて欲しい
・ 危険な作業があるため怒る事もあるが、負けないこと
・ 仕事に対する責任を持って欲しい
・ どのタンカー船でも規律をしっかり守って欲しい
・ 女性だからという意識を無くし、一生懸命やることが大切
・ 3ヶ月乗って1ヶ月休みという勤務体系に慣れて欲しい
<b>知識・技能の習得に関すること</b>
・ 船種による通常業務または特別な作業の違いなど、少しでも実態を教えて欲しい
・ 基本的なことを教えて欲しい（航海であればクロスベアリングなど）
・ 海図の灯質などの英語表記が解るようにしてもらいたい
・ 機器類について、常に正常な状態で動くようなメンテナンスを心掛けて欲しい
・ 文章を書けるようになって欲しい（報告書の作成など）
・ パソコンの取り扱い（特にエクセル）に熟知してもらいたい
・ メモを持っているがメモをとれない、メモを取る習慣を身につけて欲しい
・ 両用教育をもう一度考えて欲しい（両方持ってきても役に立たない）
<b>安全意識の習熟に関すること</b>
・ 常に周囲の状況に気を配り、冷静に物事に対処できるようになって欲しい
・ 安全面を考慮し、決められた場所以外での火気の使用は禁止
・ タンカーでは危険物取扱者の免許は特に必要ないが、職員は講習を受ける
<b>資格に関すること</b>
・ 必要な資格は四級海技士だけで良いが、入社してからいろいろ取得して欲しい
・ 3級筆記合格は、在学中一生懸命勉強したことの証明、優先的に採用する
・ 入社までに、上級の筆記試験を取得してもらいたい
・ 上級免状取得は職員へのプロモートの近道、社内規定で船長任命の条件でもある
・ ECDIS講習をやって欲しい
<b>その他</b>
・ 会社訪問をする学生を優先採用したところ、ミスマッチがなくなった
・ 何年か頑張っている先輩の話聞く機会をもって欲しい
・ 船内の受け入れ体制が整えば女子の採用も増える



## 社船実習の実施状況

海上技術学校の生徒・海上技術短期大学の学生に対する9か月の乗船実習のうち、**後期3か月**について、内航貨物船等による社船実習を導入

〈船員の確保・育成検討会報告：平成24年3月〉



### ○社船実習の実績(平成25年度・26年度)

科別	実施期間		船社数		実習生数	
	専修科 (平成25年10月から実施)	25年度	10月～12月	25年度	5社	25年度
26年度		26年度		7社	26年度	8名
乗船実習科 (平成26年7月から実施)	7月～9月		5社		8名	

### ○実施後アンケート(平成26年度)による主な回答(抜粋)

実習生	社船実習に参加して良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習船では知れない実務の仕事内容を事前に知ることができてとても有意義なものだったと思います。</li> <li>一対一での指導を受けられよく理解できた。</li> </ul>
	改善を希望する点	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船から下船まで、教育用の教官1名以上を乗せたほうがいいと思った。</li> <li>できるだけ自分が乗ることのない船に乗ることがないようにしたほうがいいと感じた。</li> </ul>
乗組員	社船実習に参加して良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習生が真面目に一生懸命取り組んでくれたことが、私たちのやりがいに繋がった。</li> <li>実習生が荷役準備作業や入出港準備作業を毎航海、まじめにやりながら、だんだんと慣れてきた後、彼らも少し余裕が出て、笑顔も見え、船内が明るく感じられた。</li> </ul>
	改善を希望する点	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの内容が多過ぎるので、具体的に分かり易くして欲しい。</li> <li>社船実習に入る前に、学生気分を切り替えて社船の仕事を覚える心持ち(精神面)の指導をして欲しい。</li> </ul>



研修実績

## 教員の研修

○職務別研修	23年度	24年度	25年度	26年度	計
内航船乗船研修	2	3	3	2	10
メンタルヘルスケア研修				6	6
新教務課長・新指導課長・学生課長研修	8		5	6	19
計	10	3	8	14	35

## ○職階別研修

ファーストステップ研修	4	15	15	10	44
セカンドステップ研修		14		8	22
ミドルステップ研修	5		4		9
新管理職者研修	12		5	5	22
管理職者研修			3	4	7
計	21	29	27	27	104

## ○技術研修

ECDIS研修			17	7	24
ERM研修				8	8
小型船舶教員研修	22	33	23	24	102
ホームページ研修	7	7	7	6	27
航海科教員研修		7			7
機関科教員研修	7				7
生徒・学生指導の改善に関する研修		11			11
計	36	58	47	45	186

小計	67	90	82	86	325
----	----	----	----	----	-----

## 事務員の研修

○内部研修	23年度	24年度	25年度	26年度	計
ファーストステップ研修	2	3	5	4	14
新管理職者研修	4		4	1	9
公文書作成研修				2	2
会計基準講習	13				13
計	19	3	9	7	38

## ○外部研修

ホームページ研修	3	3	3	2	11
給与実務研修	1		2	2	5
行政スキル基礎研修	1	1			2
企業会計基礎研修	1	1			2
人事担当課長研修	1				1
評価・監査中央セミナー	1				1
パワハラ・セクハラ防止講座	2				2
中堅係長研修		1			1
公文書管理研修		1	1		2
内部監査業務講習会		1			1
計	10	8	6	4	28

小計	29	11	15	11	66
----	----	----	----	----	----

合計	96	101	97	97	391
----	----	-----	----	----	-----



## 各学校の研修の取組

### (1) 学校管理運営上必要とされる研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ QSSセミナー	46名
	・ セクハラ防止講演会	
	・ 情報公開個人情報保護制度研修 など	
校内研修 (教育の統一)	・ 教育課程	176名
	・ アルパシミュレータ操作研修	
	・ 生徒・学生の懲戒及び体罰に関する研修 など	
計		222名

### (2) 教育業務の維持に有用な資格取得のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ ガス溶接技能講習	88名
	・ 自由研削砥石特別教育	
	・ 普通救命講習 I ・ AED一般普及講習 など	
校内研修 (教育の統一)	・ ECDIS Type-Specificトレーニング	8名
	・ SSO(船舶保安管理者)講習	
	・ CSO(船舶保安統括者)講習 など	
計		96名

### (3) 教員の教育の質の向上のための研修

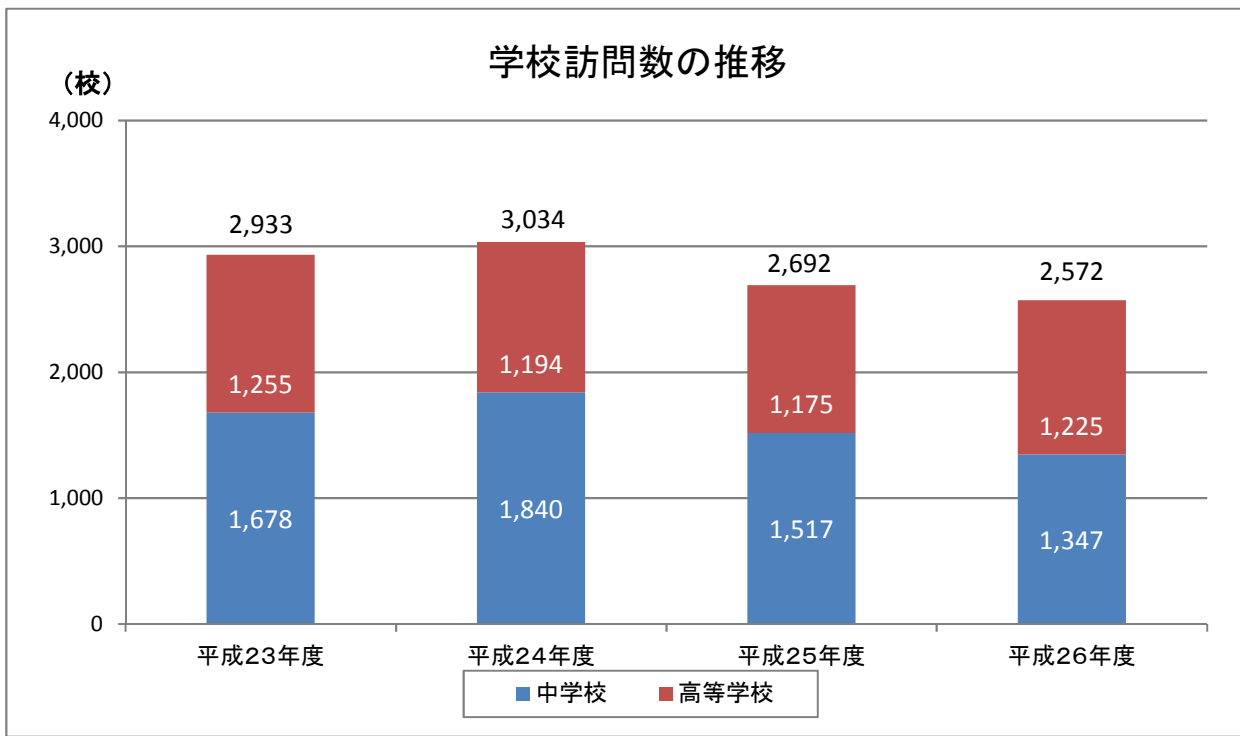
研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 新潟原動機デュエルフュエルエンジン研修	76名
	・ ISOの構築と運用に関するセミナー	
	・ LNG船「ENERGY FRONTIR」乗船研修 など	
校内研修 (教育の統一)	・ 新採用者研修	781名
	・ 校内練習船操船研修	
	・ ワイヤーサービング研修 など	
計		857名

合 計		1,175名
-----	--	--------

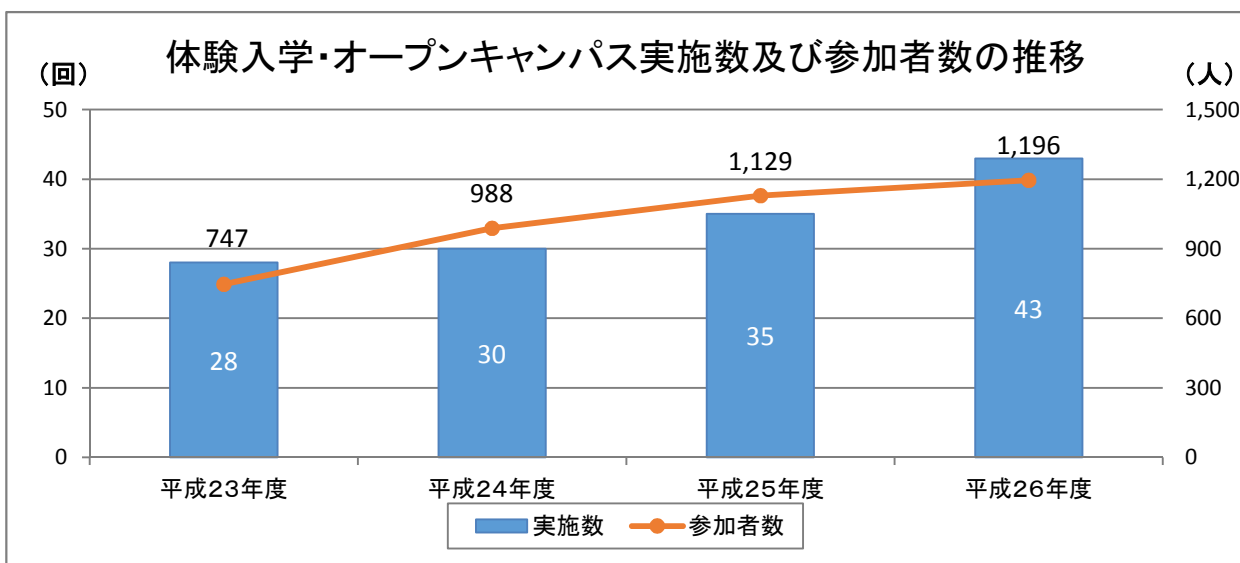


## 各学校の募集活動に関する取組

### ○学校訪問



### ○体験入学・オープンキャンパス



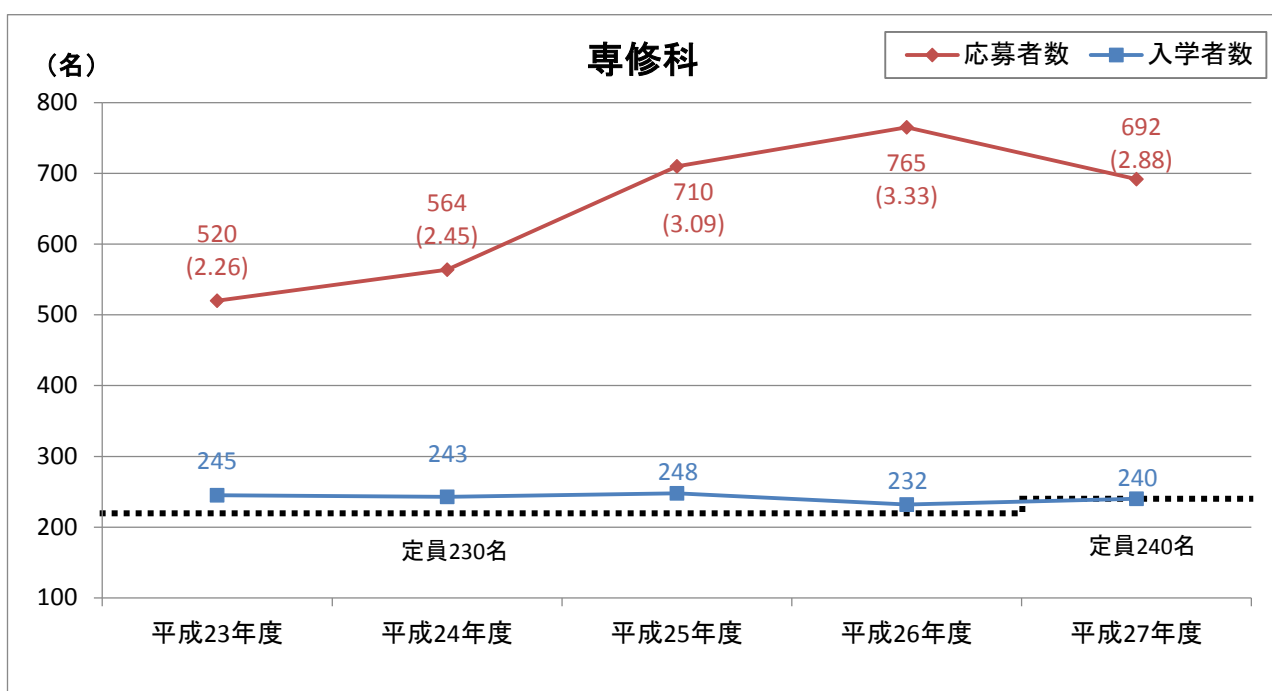
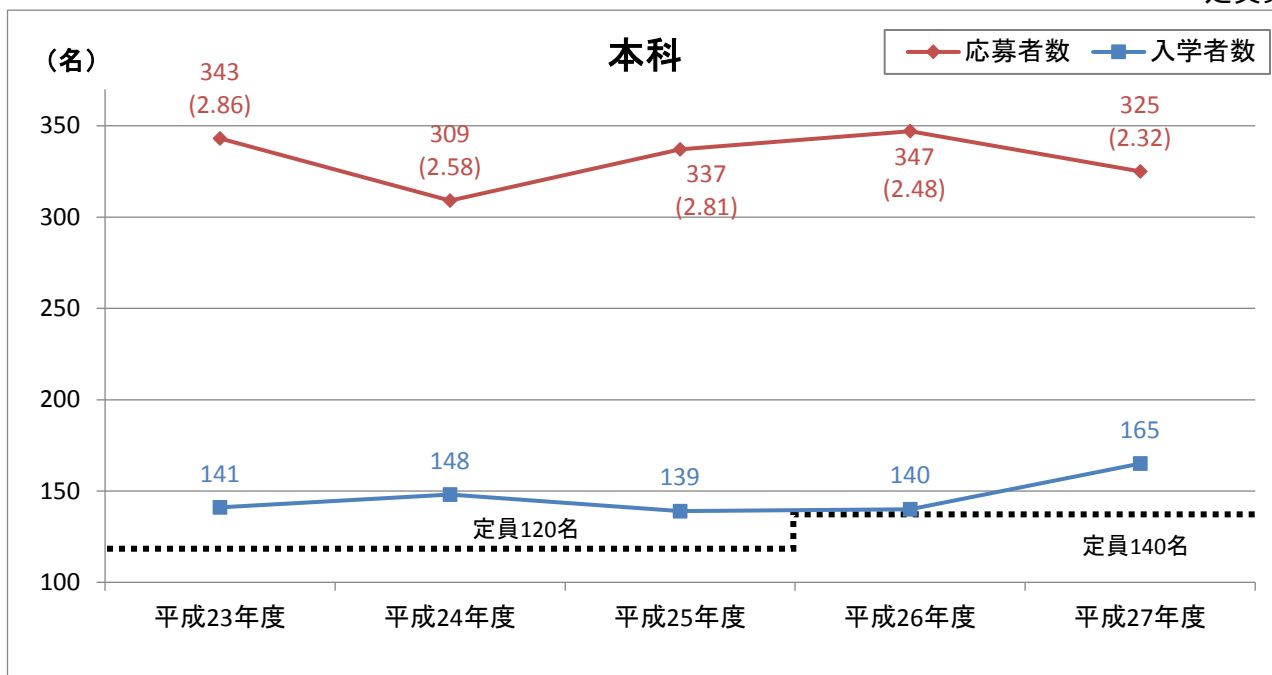
### ○その他(26年度実績)

- ・ 学校説明会への参加: 32回
- ・ 新聞・雑誌・広告等による広報: 216回
- ・ 学校案内等の送付: 延べ27,986箇所



## 入学応募者数・応募倍率の推移

…定員数



注1) ( )内は応募倍率である。



## 研究項目一覧

### ○国際条約の改正に対応した重点的な研究 [4件]

研究テーマ名	研究期間
海技者育成における教育・訓練資機材のあり方に関する研究	H22. 4～H26. 3
船員教育の高機能化に関する研究	H22. 4～H26. 3
船舶の運航技術の伝承に関する研究	H26. 4～H30. 3
船舶機関技術の最近の動向と機関士教育・訓練	H26. 4～H30. 3

### ○海技教育、船舶運航に関する研究 [39件]

研究テーマ名	研究期間
船用機関士のシステム操作におけるヒューマン・エラーに関する研究	H20. 4～H24. 3
船舶の機関システムの保守管理に関する調査研究	H21. 4～H24. 3
海上交通安全法に関する一考察	H22. 4～H25. 3
GPSの信頼性に関する研究	H22. 4～H25. 3
船橋当直における航海情報の有効性	H22. 4～H24. 3
熱応力による船用機関の損傷に関する研究	H22. 4～H25. 3
水先人の専門家としての法的責任	H23. 4～H24. 3
国際法の遵法性	H23. 4～H24. 3
旅客船退船における乗船者の脱出に関する基礎的研究	H23. 4～H24. 3
チーム意識醸成に関する研究	H23. 4～H24. 3
船用エンジニアリング教材の開発に関する研究	H23. 4～H24. 3
2船体操船及び係留監視システム	H23. 4～H24. 3
気液界面積濃度に関する研究	H23. 4～H24. 3
操船者の立場から見たAISの活用のフォローアップ検証	H23. 4～H26. 3
燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究	H23. 4～H26. 3
機関室巡回ロボットに関する研究	H23. 4～H26. 3
港内タグボートの安全性に関する研究	H23. 4～H27. 3
海難審判における過失認定のとらえ方	H24. 4～H25. 3
科学技術の進歩と海技者の責任	H24. 4～H25. 3
船員のための関係法規の流布	H24. 4～H25. 3
ECDIS訓練等における調査研究	H24. 4～H25. 3
船員の静電防止具着用に関する実験的研究-Ⅱ	H24. 4～H26. 3
船舶機関システムの運転管理に関する研究	H24. 4～H27. 3
Engine-room Team Management訓練に関する研究	H24. 4～H27. 3

機関室シミュレータを用いた運航に関する省エネルギー評価について	H24.4～H27.3
船員のための国際法入門	H25.4～H26.3
旗国による船員保護の問題点	H25.4～H26.3
水都阪神港計画	H25.4～H26.3
船と海の認知度	H25.4～H26.3
GPS信号の伝搬特性と測位精度に関する研究	H25.4～H27.3
航海情報の統合に関する研究	H25.4～H28.3
小型船におけるAIS受信波のマルチパス影響に関する調査研究	H26.4～H28.3
ECDISにおける情報レイヤーのユーザビリティに関する研究	H26.4～H28.3
漁船と動力船の衝突事故に関する一考察	H26.4～H28.3
情報通信システムを利用した離着岸操船支援に関する研究	H26.4～H28.3
霧消散予測に関する基礎研究	H26.4～H28.3
気液二相流の過渡多次元挙動解明に関する研究	H26.4～H29.3
北極海航路の行方	H26.4～H29.3
操船シミュレータにおける調査研究 ※	H23.4～H24.3
	H24.4～H25.3
	H25.4～H26.3
	H26.4～H27.3

○授業内容に関する研究 [8件]

研究テーマ名	研究期間
海事政策と異文化理解に関する研究～アメリカ文化の変容と「海洋」	H20.4～H24.3
海事英語における船の動勢の描写についての一研究	H20.4～H24.3
海事思想の普及に向けての一試行	H24.4～H27.3
海事政策と異文化コミュニケーションに関する研究	H26.4～H29.3
太陽電池及び燃料電池システムの船舶電源への導入に関する研究	H26.4～H29.3
フライングロボットの船舶における応用	H26.4～H29.3
舶用ボイラの安全性・信頼性向上に関する研究	H26.4～H29.3
分析機器を利用した海洋環境教育に関する研究	H22.4～H24.3
	H24.4～H27.3

※1年毎に契約を結んでいる。



## 研究成果発表一覧

○査読付学会論文、学位論文、著書〔23件〕

No.	発表タイトル
1	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal in Inland Sea - Possibility and Verification of Abnormal Propagation -
2	WATER QUALITY CONTROL OF AUXILIARY BOILERS OF RECENT OCEANGOING SHIPS - For Log Sheet Review and Standardization of Water Analysis -
3	水先人の民事免責 -水先約款免責条項の現代的意義と妥当性-
4	Joseph Conrad's Interest in Japan
5	港内タグボートの安全性に関する研究
6	Study on Thermal Stress-Induced Brittle Fracture of Cast Iron
7	Study on Simulator of Marine Engine System and Thermal Stress - Induced Fracture of Engine Parts -
8	パラレルメカニズムの機構解析と制御に関する研究
9	港内タグボートの安全性に関する研究 (本船の離着岸操船支援時における曳船の挙動調査)
10	科学技術の進歩と海技者の責任 (航海士としての自律性の養成—航海術の発達をもたらす規範意識喪失への対応—)
11	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究 (太陽電池、燃料電池、及びガスタービン発電機の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究 —太陽電池、鉛蓄電池システムの再利用との比較—)
12	基本運用述 2訂版
13	本船の離着岸操船支援時における曳船の挙動調査
14	ハーマン・メルヴィル『ビリー・バッド』の「後日談」を読む —語り、歴史、《花形水夫》の文化的記憶—
15	国際法による船員の保護 -外交的保護と旗国主義-
16	Proposal for Global Standard Maneuvering Orders for Tugboats
17	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal at Inland Sea - Propagation Characteristic on LF/MF Band Radio Wave -
18	Marine Boiler Water/ Cooling Water Management and Distilling Plants
19	タグボート乗組員の常態化したヒヤリハットについて
20	離着岸操船におけるタグボート運用要素の評価
21	ジョセフ・コンラッドの日本への関心
22	港内タグボートの安全運用に関する研究
23	「イギリス文化事典」における「船舶」について

○国際学会講演発表〔21件〕

1	Analysis on Turbulence Structure and Void Fraction Distribution in Gas-Liquid Two-Phase Flow under Bubbly and Churn Flow Regime
2	Possibility of Engine -room Team Management for Marine Engineers
3	The Advancement on the Reliability of Radar Information -Automatic Removable Algorithm of False Image-
4	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal in Inland Sea - Possibility and Verification of Abnormal Propagation -
5	Basic Study on the Application of the System Combined Photovoltaic Power Generation, Fuel Cell, and Gas Turbine Generator to Vessels on the Berth
6	Analysis of Operation Process of PC Based Engine Room Simulator
7	Study on Brittle Fracture of Cast Iron Induced by Thermal Stress
8	STABLE CHLORINE ISOTOPE STUDY OF MARTIAN SHERGOTTITES AND NAKHLITES; WHOLE ROCK AND ACID LEACHATES AND RESIDUES
9	Joseph Conrad' s Interest in Japan
10	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal in Japan Propagation Characteristic near Big Bridge
11	船員教育の高機能化に関する研究 ( Study on Acquisition of Effective Arc Welding Skill For Marine Engineer )
12	船員教育の高機能化に関する研究 (船用補助ボイラの水質管理における教育分野の問題)
13	海事思想の普及へ向けての一試行
14	Proposal for Global Standard Maneuvering Orders for Tugboats
15	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal at Inland Sea - Propagation Characteristic on LF/MF Band Radio Wave -
16	Evaluation method of energy saving operation in marine engine plant system by using engine room simulator
17	Occurrence Tendency of Near-Miss of Harbor Tugboats in Japan
18	Study on the Fusion of National Information toward e-Navigation
19	The Development of Meteorological and Oceanographic Data Collection and Recording System Operating on Training Ship
20	Basic study on the application of the fuel cell system operated by Kerosene to vessel
21	Study on the Development of Onboard AIS Reception Performance for a Small Boat

○国内学会講演発表〔26件〕

1	未発達領域における気液二相流のボイド率と気液界面積濃度分布に関する研究
2	垂直上昇気液二相流の未発達領域におけるボイド率と気液界面積濃度の発達
3	太陽電池、燃料電池、及びガスタービン発電機の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究
4	船舶機関士に対する効果的なガス溶接技能の習得に関する研究
5	船用補助ボイラの水質管理基準- JIMEガイドラインの改定案
6	水先人の民事免責-水先約款免責条項の現代的意義と妥当性-
7	調査捕鯨妨害に関する一考察 -国際法における違法性と妥当性-
8	船員の静電気防止具着用に関する基礎的研究

9	港内タグボートの安全性に関する研究
10	Study on Thermal Stress-Induced Brittle Fracture of Cast Iron
11	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究 (燃料電池の船舶電源への導入に関する基礎検討)
12	船舶の機関システムの運転管理に関する研究 (船用補助ボイラの水質管理基準)
13	離着岸操船におけるタグボート運用要素の評価
14	操船者から見たAIS利用の現状- II
15	タグボート乗組員の常態化したヒヤリハットについて
16	国際海運における船員の保護 -国連海洋法条約による対応とその問題点-
17	海上労働に関する条約成立の意義 -国際法による法的対応の観点から-
18	太陽電池、燃料電池、及びガスタービン発電機の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究
19	液化天然ガスを燃料とする燃料電池の船舶電源への導入に関する基礎検討
20	油濁海難事故に備えた法整備
21	GPSコンパスを利用した着棧速度・距離計測システムの開発検討
22	ERM訓練の深度化に関する研究-構成と訓練プログラム-
23	ERM訓練の深度化に関する研究-アンケートに基づいた検証-
24	船用補助ボイラの水質管理に関する一考察
25	低流速時の円管内流動非沸騰熱伝達に関する研究
26	Joseph Conradの”Heart of Darkness”と釈 迢空の「死者の書」

○海技大学校研究報告〔22件〕

1	2010年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩
2	便宜置籍船の法構造とその問題点
3	コンラッド研究欧州紀行から—ある作家が垣間見た日本—
4	船舶の機関システムの運転管理に関する研究 (最近の外航船舶用補助ボイラの水質管理—水質分析用ログシート見直しと標準化のために—)
5	ジョウゼフ・コンラッドの海洋作品における地政学的要素について(コンラッド文学案内)
6	船舶の機関システムの運転管理に関する研究 (2011年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩)
7	船員のための関係法規の流布(海洋・海運における科学技術と国際法)
8	船員のための関係法規の流布(船員のための法学入門—法の基礎理解のために—)
9	船員のための関係法規の流布(公海上の船舶衝突における法の適用)
10	海上交通安全法に関する一考察 (海上安全法の現状と問題点に関する一考察 —来島海峡航路および瀬戸内海のまとめ—)
11	Stewartプラットフォームの受動的インピーダンスの解析
12	船員のための関係法規の流布 (船員のための法学入門—法の意義の基礎理解のために—)
13	海難審判における過失認定のとりえ方 (過失認定をどう見る —事故回避に向けた一歩—)
14	BRM訓練テキストに関する一考察
15	BRM訓練におけるシミュレータ訓練シナリオに関する一考察
16	船員のための国際法入門 序章 -外航船員に必要な国際秩序の理解-
17	海技大学校における海上技術コース(航海・機関/航海専修・機関専修)の海事英語教育における諸問題

18	BRM訓練受講者の視点によるシミュレーションシナリオの評価に関する一考察
19	BRM訓練に用いるシミュレータ訓練シナリオのレベル定量化手法の検討
20	メルヴィル『ビリー・バッド』における語り手の「読み」
21	機関シミュレータ及び事例解析を用いたERM訓練の有効性
22	漁船と動力船との衝突事故に関する一考察－ I

○その他学会誌等〔4件〕

1	2012年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩
2	船員と社会的責任
3	2013年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩
4	港内タグボートの事故およびニアミスについて

発表形式	発表実績
査読付学会論文、学位論文	23
国際学会講演発表	21
国内学会講演発表	26
海技大 学校研究報告	22
その他学会誌等	4
合計	96

人事交流の実績

航海訓練所	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
受入	1	2	3	3	9
派遣	0	2	2	2	6

船員教育機関	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
受入	0	1	0	0	1
派遣	0	1	0	0	1

交流先: 広島商船高等専門学校

海運企業	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
受入	3	0	2	1	6
派遣	3	0	0	2	5

交流先: 上野トランステック(株)、(株)商船三井、三光汽船(株)、川崎汽船(株)

海事関連行政機関		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
海事局	受入	3	2	3	4	12
	派遣	4	1	5	5	15
近畿運輸局	受入	1	1	0	1	3
	派遣	1	1	0	0	2
神戸運輸監理部	受入	0	0	0	1	1
	派遣	0	1	0	0	1

---

合計	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
受入	8	6	8	10	32
派遣	8	6	7	9	30

